

2019年3月期第2四半期決算説明資料

開催日：2018年10月30日（火）

出席者：代表執行役副社長 文挾 誠一

常務執行役 森下 義人

説明資料：2019年3月期第2四半期決算説明資料

【2019年3月期第2四半期連結決算の概要】

- スライド1では今回の決算のポイントを端的に整理しております。
- 東京電力グループ全体の販売電力量が減少したものの、燃料費調整額の増加や、東京電力グループ外からの託送収益の増加などにより、売上高は増収となりました。
- 経常損益は、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減を実行した一方、競争激化による販売電力量の減少や燃料価格の上昇などにより、減益となりましたが、経常損益、四半期純損益は6年連続の黒字を確保いたしました。
- なお、今期中間配当につきましては、大変申し訳なく思っておりますが、「無配」とさせていただき、2019年3月期末についても「無配」とさせていただく予定です。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比で7.9%増の3兆555億円と「増収」、経常損益は2.5%減の2,106億円と「減益」となり、特別損益を加えた四半期純利益は、896億円となりました。

【セグメント別のポイント】

- スライド3、4では、各セグメント別の業績をご説明いたします。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。スライド4のセグメント別の売上高と経常損益の表をご覧ください。
- 3基幹事業会社からの経営指導料等の見直しによる取引高の減少や、主にエネルギーパートナー向けの販売電力料が減少したことにより、売上高は前年同期比176億円減収の3,915億円となりました。
- 一方、受取配当金の増加により、経常利益は、107億円増の1,734億円となりました。
- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 主にエネルギーパートナー向けの販売電力料の増加などにより売上高は前年同期比1,244億円増収の9,519億円となりました。

- また、コスト削減努力などによる固定費の減少に加え、子会社利益が増加したものの、燃料価格の上昇による燃料費の増加などにより、経常利益は25億円減の52億円となりました。
- 続いて、東京電力パワーグリッドの業績です。
- エリア需要の増加などにより託送収益が増加したことから、売上高は前年同期比395億円増収の8,752億円となりました。
- また、委託費・修繕費などの減少により、経常利益は354億円増の1,170億円となりました。
- 最後に、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 燃料費調整制度による販売単価の上昇などにより、売上高は前年同期比1,526億円増収の2兆8,559億円となりました。
- 一方、域外の販売電力量は増加したものの、競争激化によりグループ全体の販売電力量が減少したことなどにより、経常利益は361億円減少し、541億円となりました。

【連結特別損益の概要】

- 特別損益については、スライド5をご覧ください。
- 特別損失として、原子力損害賠償費を846億円計上いたしました。

【連結財政状態の概要】

- 連結財政状態については、スライド6をご覧ください。
- 自己資本比率は、総資産残高が減少した一方、四半期純利益の計上により純資産が増加したことから、前年度末より0.9ポイント改善し22.0%となりました。

【2019年3月期業績予想】

- 最後に、2019年3月期の業績予想については、スライド7でお示ししている通り、本年7月にお知らせした内容から変更はありません。

【参考資料（スライド8以降）、補足資料（スライド14以降）】

- スライド8以降は参考資料および補足資料です。

以上